

# 比較現代日本論特論 I

2001.10.19

## 第 2 回 「生活時間の男女差」

### 1. 生活時間調査

- NHK 放送文化研究所「国民生活時間調査」1960-2000 まで 5 年ごと + 1973 年 (戦前からあるが、現在と比較可能なのは 1960 年以降)
- 総務庁／総務省「社会生活基本調査」1976 年から五年ごと

### 2. 行動分類ごとの時間配分

### 3. 不平等指数

編 = 矢野 眞和、1995『生活時間の社会学』東京大学出版会、ISBN 4-13-051107-6。

### 4. 不平等指数の国際比較

NHK 放送文化研究所、1995『生活時間の国際比較』大空社、ISBN 4-87236-946-7。

### 5. 不平等指数の改善

- 「構成効果」の問題
- 男女の労働時間はつりあっている?

#### • 「新・性別役割分業」

樋口 恵子、1985「主婦という名の「座権」」『世界』478: 246-27。

逸脱は禁止されていない  
 →優先順位としての性別分業原理

- まず周辺分布 (労働の需要と供給) がきまる
- できるだけ多くの家事労働を女性に、市場労働を男性にわりふる  
 =最大関連を基準にとる

NHK 放送文化研究所「国民生活時間調査」2000 年から

	生活必需	仕事・学業	家事	移動	参加・交際	レジャー	メディア	休息
成人男性 (平日)								
成人女性 (平日)								
差								

不平等指数 =

男女の仕事・家事時間(平日)  
 NHK「国民生活時間調査」

